

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105
TEL 096-285-7761
FAX 096-285-7762
E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp
URL http://kumacsw.com/



発行責任者 梅田 孝子
編集責任者 田上 緒
発行月 2024年8月



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSWくまもと

Certified Social Worker

第80号

新会長・前会長 挨拶(P1)
定時社員総会・三役挨拶(P2)
社会福祉セミナー(P3)
特集・子ども食堂(P4)

特集・黒髪地域食堂(P5)
包括ネット開催(P6)
執行部体制(P7)
インフォメーション(P8)

一般社団法人 熊本県社会福祉士会 新体制でソーシャルワークを推進 就任挨拶



梅田 孝子 新会長

会員の皆様には、日頃より当社会福祉士会の活動にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。この度、定時社員総会におきまして、会長を拝命し、身の引き締まる思いです。2期4年と当会の発展のためにご尽力されてきました深谷前会長の後を引き継ぎ、浅学非才の身ではありますが、新体制のもと心新たに当会活動を進めていきたいと思っております。

さて、2024年度の重点施策が事業計画において示されました。既に2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築に向け、当会におきましてもこれまで様々な地域包括ケアに係る事業を展開してきました。

今年度は「ソーシャルワークの推進」「活動基盤の強化」「専門性の向上」の重点施策2024を達成できるように、執行部・委員会活動の事業運営はもとより、会員一人ひとりが「自分ごと」として

当会運営に参画していただくことが重要であり、縦割りの活動ではなく横串をさした連携強化を図ることが大事になってくると考えております。

結びになりますが、社団法人として、また会員それぞれの実践を通じて、県民の方々の健康的な生活の維持に寄与できるように、微力ながら努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

退任挨拶

深谷 誠了 前会長

皆様には、本会の活動にご協力を頂いておりますこと感謝申し上げます。2020年定時社員総会より務めさせて頂いた会長職を2期4年をもって退任いたしました。思い起こしますと、コロナ初年度に就任し、コロナ5類移行後退任という数奇なご縁に不思議な気持ちです。また就任後1週間目に令和2年7月豪雨が発生し、災害時支援体制から始まったことも思い出深く感じております。

さて、「ソーシャルワークの推進」「活動基盤の強化」「法人管理」「会員への平等な組織体制づくり」などを掲げて組織改革を目指して参りましたが、道半ばでの退任となりました事お詫び申し上げます。次期体制においてさらに推進していただくと確信しております。

就任期間中は、本会内外の有縁の皆様より沢山の学びをいただきました。これらを生かし地域の中でソーシャルワーク実践を更に進め、住民の身近にソーシャルワーカーがいることができる社会を目指していきたいと思っております。

最後に、多くのお支え、ご協力いただきました方々へ感謝を申し上げます。



新体制で社会福祉士の地位向上をめざす

副会長・事務局長 就任挨拶



西田 剛 副会長

旧執行部から引き続き、副会長をさせていただきます西田剛と申します。

理事としては4期目で最後の期となり、総務・理事会、研修育成部会、組織活動部会、災害時支援委員会

等を主担当として梅田会長を支えて参ります。

色々と課題は山積しておりますが、会員の皆さまと楽しく、何でも相談し合える環境を造っていければと考えております。宜しくお願い致します。



高江 康明 副会長

このたび、副会長に就任いたしました高江康明です。

梅田会長をはじめ執行部の方々と協力しながら社会福祉士会の活性化に向けて尽力していく所存です。特にこれまでの経験を活かし、会員の皆さんの協力も得ながら

魅力ある組織作りにチャレンジ出来たらと考えております。

これからも、福祉サービスの質の向上と専門職の地位向上を目指してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



緒方 誠 常務理事(事務局長)

今回の役員改選及び理事会において常務理事兼事務局長を仰せつかりました緒方誠です。

理事としては2期目になりますが、事務局体制の充実は元より、会の目的である社会福祉士の倫理の確立

と専門的スキルを研鑽し、社会福祉士の資質と社会的地位の向上を目指して、必要な会員の利益追求のために微力ながらがんばりたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

活動の総括と新体制を承認

2024年度 定時社員総会を開催

※記事中の役職名は取材当時のものです。



深谷 誠了会長



傘 正治 事務局長

2024年度 定時社員総会が6月22日に開催されました。当日の司会進行は、西田剛副会長が務められました。

当日の会場出席者66名と委任状提出者529名により、熊本県社会福祉士会正会員880名の過半数を越え、総会が成立している旨が説明されました。

深谷誠了会長の挨拶があり、2023年度の活動総括について会長から報告をされました。

傘正治事務局長からの事務局運営報告についての説明に続き、委員会活動計画、ブロック活動計画について、会場に参加している委員長、ブロック長より報告がありました。傘正治事務局長から資金収支計算書、正味財産増減計算書内訳書、公益目的事業会計決算書等を基に報告がありました。

その後、高江康明監事より監査報告がありました。第1号議案から第4号議案までいずれも承認されました。

第2号議案の理事15名の選任及び第3号議案の監事3名の選任の詳細については、P7に掲載させていただきます。ご参照ください。

自助努力に頼らない社会を実現するために 2024年度 社会福祉セミナー 開催



慶応義塾大学 井手 英策 教授

また、「ベーシックサービス」の無償化と合わせて、人と人、人と制度をつなぐ接着剤のような「ソーシャルワーク」を一体的に実践することで、すべての人たちが「より良い生」「より良い未来」を構想する自由を手にできるようになると、会場のソーシャルワーカーたちに期待を込めるように、熱い語り口で講演されました。

その後、「私たちの暮らす社会・未来への提言」と題して、井手教授と熊本県社会福祉士会の深谷誠了会長、坂本眞奈美理事によるトークセッションもありました。

本セミナーは、今後の社会保障制度のあり方を考える上で、重要な機会となりました。参加者からは活発な質問が寄せられ、充実した時間となりました。

(広報委員会 魚谷)

定時社員総会後、2024年度 社会福祉セミナーが開催され、熊本県社会福祉士会の会員ら約80人が参加しました。

慶應義塾大学の井手英策教授をお招きし、「ライフセキュリティ～希望と責任を分かち合う社会への提言～」と題し、地域共生社会におけるソーシャルワーカーの役割についての講演が行われました。

井手教授は、貧しかった少年時代の経験などを踏まえ、現在の「社会保障(ソーシャルセキュリティ)」を「生の保障(ライフセキュリティ)」へ変えて、自助努力に頼らず、誰もが安心して暮らせる社会を実現するために、医療、教育、介護の「ベーシックサービス」を無償化することを提示され、財政学的な観点から消費税を16%に引き上げることで実現が可能であると力説されました。



トークセッションの様子

※記事中の役職名は取材当時のものです。

特集 こども食堂の取り組み

こども食堂とは

生活に困窮する世帯や孤食のこどもに対して、地域住民のボランティアや事業所等が主体となり、こどもが一人で利用できる、無料、または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する場のことです。

ここ数年、こども食堂に取り組む団体が増えていきます。NPO法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」によると、熊本県内にはこども食堂がすでに170箇所以上(2023年10月調査)あり、2022年度から2023年度にかけて22箇所、率にして15%増え、人口10万人あたりで見ると、全国で10番目に多くなっています。

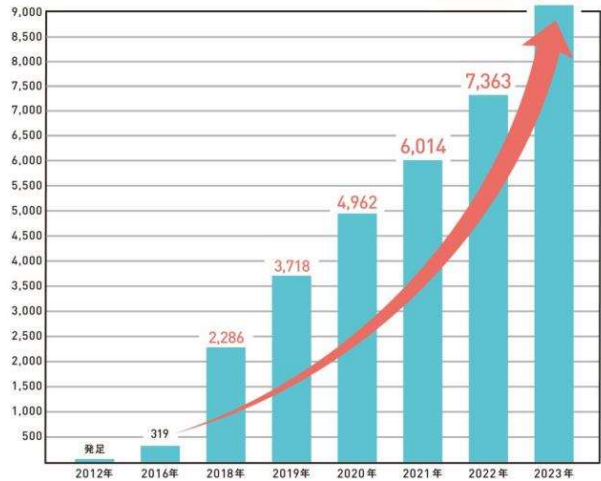
しかし、こども食堂に取り組む団体や周辺の方からは、「本当に生活に困窮する世帯に来てもらうことが難しい」「参加者が増えすぎて対応できない」「運営費やスタッフの負担が大きい」「継続が大変」などという悩みや不安の声が聞かれることがあります。

こども食堂は来所した人数、手法、大変さや難しさなどが表面上で語られることが多く、取り組みの本質や価値が評価されにくい現状があります。

こども食堂の箇所数の推移

NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 提供

速報値 9,131



2018年以降は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

表面上は見えにくい こども食堂の価値

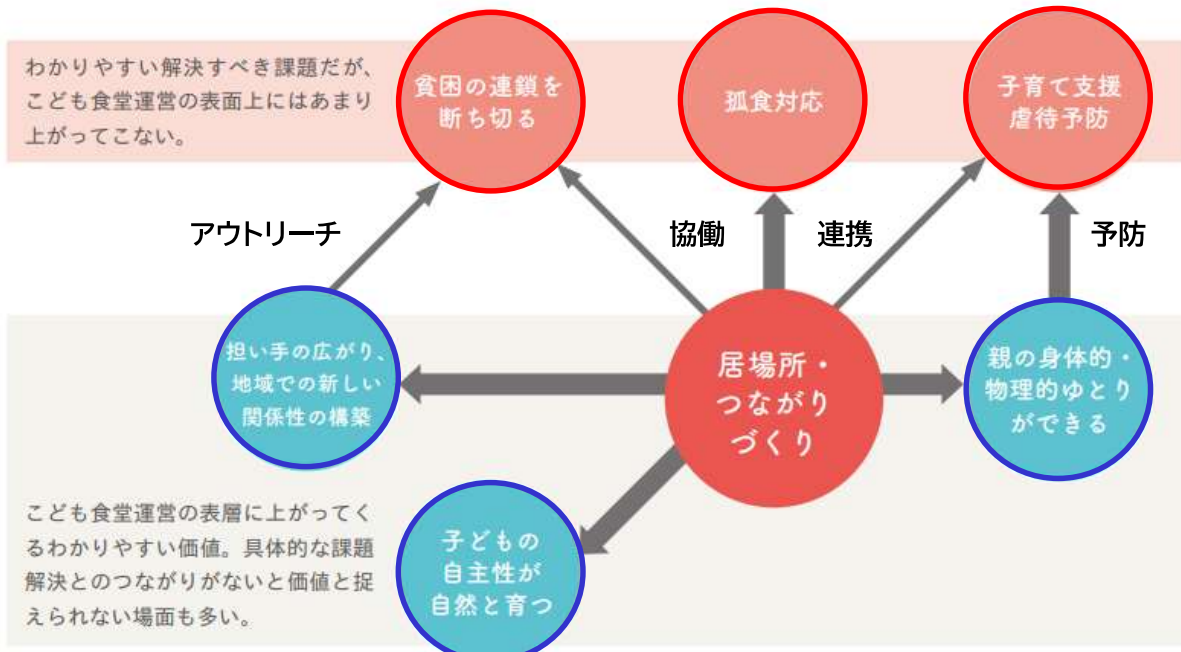


図:NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ「さくらプロジェクト」5つのバリュー等の関係性の整理」に加筆

図のように、実際はこども食堂の取り組みによって、担い手が広がり、地域での新しい関係性が構築され、こどもの自主性の向上や親のゆとりにつながりやすくなります。ただ、表面上は子育て支援・虐待予防、孤食への対応、貧困の連鎖を断ち切る、といった個別課題の解決につながっていることは見えにくいようです。

こども食堂の取り組みには、個別課題を持つ世帯へ手を伸ばし、住民や関係機関が連携・協働しながら個別課題の発生を予防し、声なき声を聞こうとするソーシャルワークのアウトリーチの機能があります。

次の5ページは、こども食堂に取り組む住民団体を取材させていただきました。(広報委員会 田口)

こどもたちと一緒につくる地域の食堂

黒髪地域食堂 「いちょうの木つどい」



代表 細郷 英明さん



7月27日、熊本市中央区子飼本町にある黒髪地域コミュニティセンターに黒髪小学校の児童18名ほどが集まっていました。2024年4月から毎月1回、第4土曜日に黒髪地域食堂「いちょうの木つどい」が開催されており、黒髪校区の住民や近隣の大学の学生ら有志10名ほどで運営されています。

黒髪小学校のシンボルでもある「大いちょうの木」から命名された食堂の代表は黒髪校区社協の会長も務める細郷英明さん。

細郷さんは毎朝、交通安全の見守り隊としてこどもたちの通学路に立っておられるときに「地域でこどもたちの居場所をつくりたい。」と考えられ、校区の食生活改善推進員の田上さんや保護司の江崎さんなど、校区にお住まいの有志のボランティアの皆さんにお声かけされて、こども食堂を立ち上げられました。

細郷さんはこども食堂に取り組むにあたり、「食事を提供するだけでなく、食材を切ったりまぜたり、自分でやるような体験をとりいれ、こどもたちの主体性を養えるような工夫をしたい。」と考えられています。この日は「ミニ夏祭り」として、こどもたちが自分で綿菓子やかき氷をつくりました。

迎えに来た保護者の方からは、普段はあまり食べないこどもがここではよく食べることや多世代の方との関わりに積極的になったと伺いました。



高齢者、学生、企業のボランティアの居場所



運営メンバーには、地域に住む高齢者や障がい者、近隣の大学生、企業のボランティアも参加され、特に学生が中心になって内容を企画することもあり、運営する多様な担い手の皆さんの居場所にもなっています。毎月の運営準備会議には中央区役所のまちづくりセンター職員や校区の保健師、地域包括支援センターや障がい者相談支援センターの社会福祉士もオブザーバーで参加しています。

地域課題に向き合う担い手は広がっており、専門職を含めた新しい関係性が構築され、連携や協働、個別課題の予防、多世代へのアウトリーチ機能があることがわかりました。（広報委員会 田口）

【Data】 名称：「黒髪地域食堂いちょうの木つどい」
代表：熊本市中央区黒髪2丁目34番25号
電話：070-9042-0226
活動：毎月1回 第4土曜 11時～13時
場所：黒髪地域コミュニティセンター

【Memo】 居場所・つながりづくり(連携・協働・予防・アウトリーチ)
 親の身体的・物理的ゆとりができる
 こどもの自主性が自然と育つ
 担い手の広がり、地域での新しい関係性の構築

意思決定支援におけるキーパーソンは常に本人

2024年度 第1回 包括ネット開催

7月6日に熊本市中央公民館で2024年度 第1回 包括ネットが開催されました。

包括ネットは、地域包括支援センターに勤務する社会福祉士の専門性の自己研鑽と社会福祉士どうしのネットワーク作りとして、地域包括委員会が主催し、社会福祉士会に入会していない非会員の方も参加できます。

今回は「ソーシャルワーカーに求められる意思決定支援とは」をテーマに、紫藤千子さんを講師に迎え、地域包括支援センターの社会福祉士が当事者本人の意思決定をどう支援していくのかを学びあいました。



講師の紫藤 千子 さん

事例をもとにグループワークを行いながら参加者それぞれの考えを出し合いました。

紫藤さんから、地域包括支援センターは、地域活動などで元気な高齢者に関わることの出来る機関だからこそ「元気に過ごしているから大丈夫」と考えるのではなく、高齢者の方がしっかりと自分の意思を伝える事ができるうちに話を聞いておく事が必要との事でした。また日頃から本人の言葉を聞いておき、別の選択が出てきたらその都度、本人の意思を確認することも必要だという事でした。

(左) グループワークの様子



久しぶりの集合研修となった会場の熊本市中央公民館

本人が自分の意思や思いを伝える為のトーキングマットというコミュニケーションツールの紹介もありました。本人が自分の意思を表明できるようにたくさんの歯車をかみ合わせることは社会福祉士の得意分野であり、本人の判断力がある時に点をつなげていく事が必要ですが、つなぐとは関係機関に情報提供する事ではないと、実際にあった対応で感じた事を話してくれました。

意思決定支援をしていく上で、キーパーソンは常に本人であり「私たちのことを私たち抜きに決めないで」という言葉にあるように、本人以外の思いに

偏ってはいないかと考えながら対応していくようにとの事でした。

また、社会福祉士は本人の意思決定を伝える役割ですが、意思決定支援について国民皆が同じ気持ちになる為に、社会福祉士が土台になっていくことも必要だという事でした。

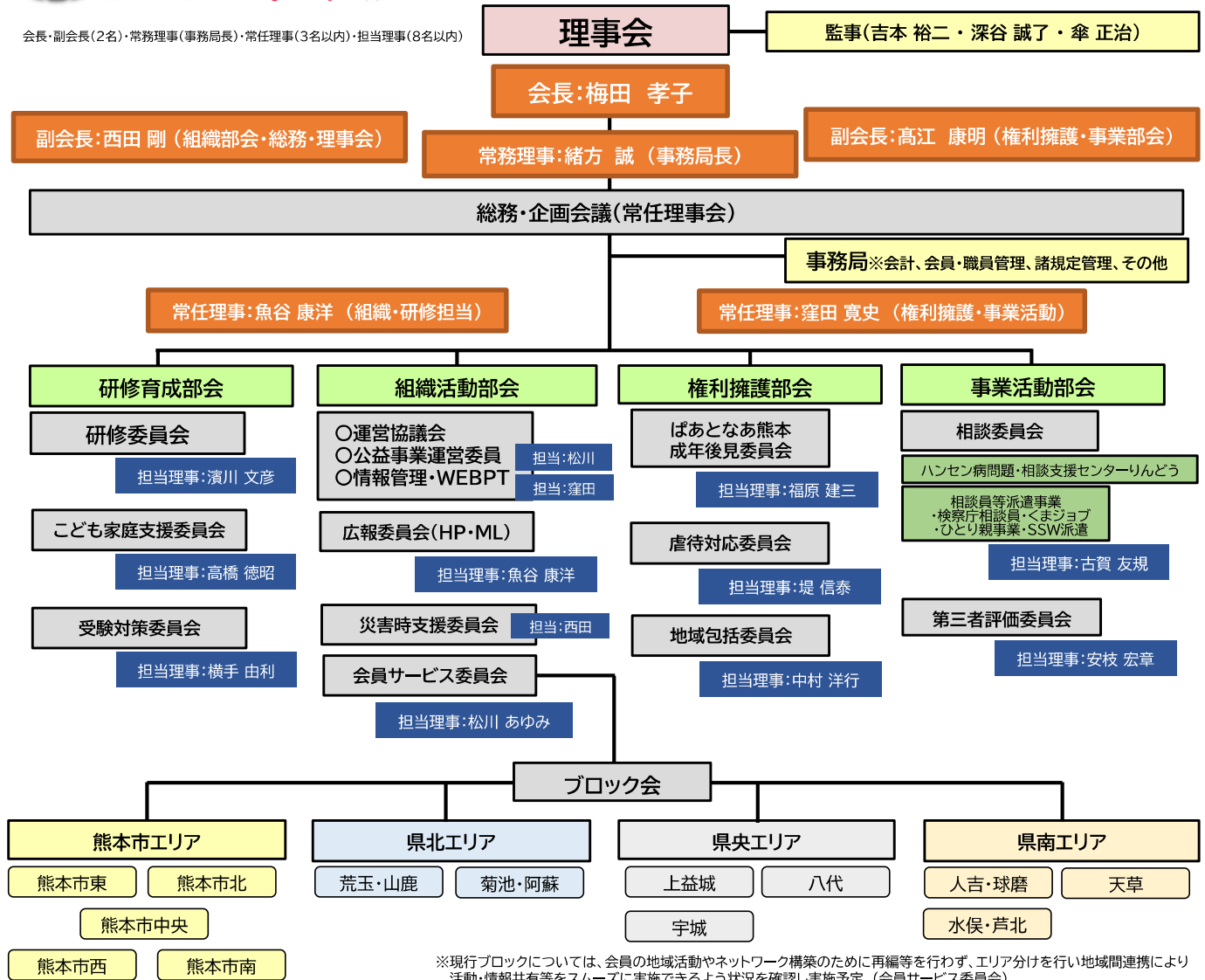
最後に、研修で学んだ事を地域包括支援センター内や圏域内外の関係機関、地域の方と勉強会を開催して欲しいとの提案に対して、参加者のうなずく姿がありました。

(広報委員会 篠田)

熊本県社会福祉士会 執行部 体制 (2024年度)



会長・副会長(2名)・常務理事(事務局長)・常任理事(3名以内)・担当理事(8名以内)



※現行ブロックについては、会員の地域活動やネットワーク構築のために再編等を行わず、エリア分けを行い地域間連携により活動・情報共有等をスムーズに実施できるよう状況を確認し実施予定。(会員サービス委員会)



2024年度 定時社員総会で就任の挨拶をする梅田 孝子 会長 (一番右)

information

りんどう相談支援センターよりお知らせ

ハンセン病ドキュメンタリー映画「風の舞」 上映会 + 監督講演

日程:10月12日(土)

①開場13:00、開演13:30

②開場17:30、開演18:00

場所:熊本市市民会館
熊本市中央区桜町1-3



※12日(土)~14日(月・祝) 熊本市市民会館にて
菊池恵楓園 絵画クラブ「金陽会」絵画展あり

日程:10月25日(金)

開場17:30、開演18:00

場所:八代市・ホテル大黒屋
八代市麦島西町7-15



日程:10月26日(土)

開場9:30、開演10:00

場所:御船町カルチャーセンター
御船町木倉1168



映画「風の舞」
公式ホームページ

ハンセン病療養所の将来と未来につなぐ講演会

日時:11月16日(土)13:30-16:30 (開場13:00)

場所:山鹿市民交流センターホール (山鹿市役所)

定員:350名(事前予約制) 参加無料

第1部 13:30~ 発表「私たちにできること ~ハンセン病問題の学習を通して~」
山鹿市立菊鹿中学校 生徒会・チーム菊鹿中学校
講演「記憶をつなぐ ~長島愛生園 歴史館(岡山)の取り組み~」
【講師】長島愛生園 歴史館:田村 朋久氏

第2部 15:20~ トークセッション「経験を未来へ伝える」
【登壇者】中 修一氏(回復者・ひまわりの会会長)
田村 朋久氏(長島愛生園 学芸員)
【参加者】会場の皆さま
コーディネーター:西 章男氏(りんどう相談支援センター 副センター長)



講演会 案内PDF

※申込詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

問合せ連絡先:りんどう相談支援センター 096-365-7606

月曜日~金曜日 午前9時~午後4時

予告 会員サービス委員会より 新規合格者の集い 開催のお知らせ

日程:11月30日(土)午後

場所:未定

歓迎会あり



熊本県社会福祉士会
ホームページ

※申込詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。ぜひ対象のお知り合いにお声掛けください。

つばやき

熊本の8月は35度超えの猛暑が続いています。

私自身、熱中症には注意していたつもりが軽い熱中症になりました。先日仕事が重なり夕方まで施設や病院を車で移動。面会した高齢者・障がい者に「お食事と水分補給に気を付けてください」と話をして帰宅。数時間後、目眩や吐き気やだるさ等。私自身、食事の大切さ、水分塩分摂取が足りていなかった事を深く反省しました。

今回、特集で取り上げた「こども食堂」、こどもや高齢者の居場所づくり、企業や個人の支援活動など、ネットワークが進んでいます。今後も、色々なテーマを取材して皆様に情報をお届けしたいと考えています。

(広報委員会 中村)